

サザエさん^{sozoe-san}をさがして

イルミネーションが輝く街角で恋人たちが愛を語り、子どもたちは贈り物でしゃべりクリスマス。でも元は、キリスト教でイエス生誕を祝う、家族の愛を確認する祭事のはず。いつから日本で「催事」として定着したのか。掲載作は62年。磯野家ではクリスマスに家族で祝う習慣がすでに根付いている。57年にもノリスケ一家とクリスマスケーキを囲んでいた。

「クリスマス産業の発祥は古く、明治中頃の神戸です」と話すのは、装飾具の業界団体、日本クリスマス工業会会長の中城達蔵さん(77)だ。当時はおもちゃから欧米への輸出用。家業の関係で中城さんの家は戦前からツリーがあつたが少数派だった。「うちは代々徳宗なんですけどね。何のお祭りやと思ってました」

国内向け販売が伸びるのは戦後だ。初期はキャバレー客向けのサンタ帽子や店頭飾り

クリスマス

酔っぱらいが普及に一役

その思いとは裏腹に、バブル期にかけて状況はエスカレート。「カップル消費を狙った業界の仕掛けで80年代にはデートイベントに変わった」と、馬場康夫さん(54)は話す。80年代以降、若者の流行を生んできたホイチョイ・プロダクションズ代表で、映画「バブルへGO!!」タイムマシンはドラム式」の監督だ。それも近年は変わった。市場調査会社インフィニティと市場調査会社名古屋の「クリスマスの恋愛サイフ術」調査では、20〜30代女性の半数は今年のクリスマスの「予定なし」で、「ホテルで過ごす」はわずか2・5%。「不景気

62年11月、大阪駅前デパートにお目見えしたクリスマスセールのイルミネーション

などの需要が多かった。「それをお父さんたちが持ち帰った。酒飲みがクリスマスを広めたとも言えますね」と中城さん。産業の最盛期は高度成長期にかけて。61年12月24日付ではサンタ帽姿の酔っぱらいが防火用水に落ちるのを波平が目撃する。

実は磯野家は、本来の意味でクリスマス祝っていた。40年代後半からカツオたちがツリーの飾り付けをし、教会で賛美歌を歌っている。61年にはワカメがクリスマス劇のけいこをする姿も描かれる。

作者の長谷川町子さんは聖公会のクリスマスチャンだった。だからこそ掲載作のように、商業主義へ走る風潮へ、ちくちくと皮肉をこめたのだと思う。

その思いとは裏腹に、バブル期にかけて状況はエスカレート。

た業界の仕掛けで80年代にはデートイベントに変わった」と、馬場康夫さん(54)は話す。80年代以降、若者の流行を生んできたホイチョイ・プロダクションズ代表で、映画「バブルへGO!!」タイムマシンはドラム式」の監督だ。それも近年は変わった。市場調査会社インフィニティと市場調査会社名古屋の「クリスマスの恋愛サイフ術」調査では、20〜30代女性の半数は今年のクリスマスの「予定なし」で、「ホテルで過ごす」はわずか2・5%。「不景気

北極圏に住むというサンタクロースにあてて、フィンランドのサンタクロース中央郵便局には、世界中の子どもたちから毎年数十万通の手紙が寄せられる。中でも日本からの手紙は多く、01年に日本・フィンランドサンタクロース協会が設立され、世界で唯一サンタとの手紙のやりとりを「仲介」している。

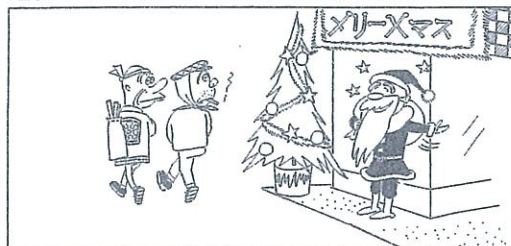
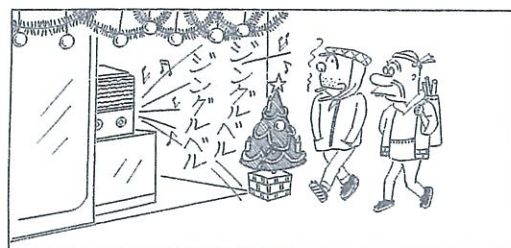
「(ゲーム機)のDSを下さい」「サンタさんと空を飛びたい」。手紙は無邪気なものが多いが「最近では家族の幸せや平和を願う子どもが増えているそうです」と事務局の富田仁美さん(38)は話す。

日本の子どもは手紙の多さは、手助けする親の多さの表れでもある。「サンタクロースを通して、愛や夢を信じてほしいという大人の思いも実感しています」

子どもや親たちの願いがクリスマスの原点に戻ってきていることに、富田さんは未来への希望の光を感じている。

(渡部 寛)

単行本が第3弾「またまたサザエさん」をさがして」まで発売中。朝日新聞出版刊、1000×1260円。ASA経由でも購入できます。



この日こんな記事も

『国民生活白書』を公表 経済企画庁は13日に白書を発表。「家庭用電化製品は一流国、被服は二流国、生活環境は『等外国』というアンバランスである」と述べた。

だし、機軸料金もかかる。今の子はだとも遊ぶ気分じゃないだろうね」と馬場さん。